



焼損した旧モーガン邸、玄関部分が残る(写真 米山淳一)

## 旧モーガン邸の再建に踏み出す

2020年9月30日の当公益社団の臨時理事会で、旧モーガン邸(藤沢市大鋸)を当公益社団が取得し、再建する決定がなされました。これは、旧モーガン邸を保存している公益財団法人日本ナショナルトラストからの正式な申し出に応えたものです。

旧モーガン邸は、1931年(昭和6)頃、藤沢市大鋸に建てられた建築家J.H.モーガンの自邸です。敷地は約2000坪。横浜市戸塚区との市境から約500m西側の藤沢市大鋸に位置します。長年、横井英樹氏(日本産業社長)の所有でしたが、負債の代償として整理回収機構が売却物件としていました。2004年に財団法人日本ナショナルトラスト(以下JNT)が自邸と敷地の約3分の1、藤沢市が敷地の約3分の2を取得し保存に至りましたが、その後2007年と2008年の2回の不審火により自邸等は焼損してしまいました。

JNTは自邸等が焼損したことで、旧モーガン邸の文化財的価値は無いと判断し、再建を行わないことを決めました。この決定に藤沢市もNPO法人旧モーガン邸を守る会(以下NPO)も困惑。以来、旧モーガン邸世話人会(メンバー藤沢市、JNT、NPO)でも再建は、大きな課題となっていました。業を煮やしていたNPOは、旧モーガン邸世話人会において公益社団法人横浜歴史資産調査会(以下YHG)の存在を紹介。これを受けてJNTは世話人会で、YHGに所有する土地と保険金の一部を寄付し、再建を託したい旨の意志を示しました。これを受けてYHGは、再建を目指した学術調査(委員長水沼淑子・当公益社団理事)を行い、再建、活用計画報告書をまとめJNTや藤沢市に提出しました。

現在の旧モーガン邸は玄関廻りを残し焼損状態のままですが、雨風から自邸を守る目的でJNTは、簡易的な上屋を設けています。JNTと藤沢市の間では、JNTが自邸等と敷地全体を一体管理する契約を結んでいて、日常管理(建物、庭等)はJNTからの委託でNPOが行っています。焼損後もNPOが渾身を込めて行ってきた日常管理や各種イベントの開催が功を奏し、旧モーガン邸の存在価値は広く知られ湘南地区の邸宅文化の拠点としての重要性がますます高まっています。

このような状況を礎にYHGは、NPO、藤沢市と力を合わせて旧モーガン邸の再建に向けて踏み出すことになりました。

かつてJ.H.モーガンは、横浜市に事務所を構え、横浜山手聖公会聖堂、111番館、ベーリック・ホール、外国人墓地正門、根岸競馬場馬見所ほか多くの作品を世に送り出しました。自邸は藤沢市ですが、横浜ゆかりの建築家として大いに尊敬するものであります。旧モーガン邸と市境を挟んだ至近の横浜市戸塚区俣野には、旧住友家俣野別邸(横浜市所有)があります。こちらも不審火で焼損したのち横浜市が再建し、旧モーガン邸と連携した活用が望まれています。地域一体の活性化に大きく寄与することを目的に再建事業に挑みたいと思います。

11月28日(土)の「再建シンポジウム」をスタートとし、募金活動、イベントの開催など、より活発な活動を推進して参りますので、皆様の多大なるお力添えとご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和2年11月吉日  
公益社団法人横浜歴史資産調査会  
会長 宮村 忠